

権力を告発する!

2018/07/17

No.016

公安警察による全学連大会襲撃弾劾!
告訴・国賠ニュース

発行：全学連救対部

03-3651-4861

mail_cn001@zengakuren.jp

検察は告訴を受理しろ! 公安警察を監獄へ!

警視庁公安部による「全学連大会襲撃事件」の告訴から1年7ヵ月が経過。東京地検特捜部は捜査を進めることなく逃げ続けています。暴行を「視察活動」「職務質問」と居直る警視庁公安部をかばっているのです。許せません。

東京地検特捜部は、ただちに告訴を受理し、学生を襲撃した公安警察を起訴しろ! 7月19日(13時)、東京地検前で申入れ行動を行います。

同事件での国家賠償請求訴訟では今年2月、小野寺裁判長と弁護団が、暴行動画の証拠を隠滅させないために、警視庁(本庁)に「証拠保全手続き」の立ち入りを行いました(公安警察

は動画の提出を拒絶)。

証拠を隠ぺいする警視庁公安部を絶対に許さず、告訴と国賠で徹底的に闘います!

<p>警視庁公安部の警察官から集会会場前で暴行を受けたとして、中核派系全学連の委員長ら五人が東京都と警察官に損害賠償を求めた訴訟で、東京地裁(小野寺真也裁判長)は、二十三日、警視庁が現場で撮影した写真や映像を証拠として保全する必要があり、東京地裁が、東京都千代田区の警視庁本部に立ち入った。</p> <p>原告側によると、裁判官が庁内で任意の提示を求めたが、警視庁は「捜査手法が明らかになるほか、写り込んだ第三者のプライバシーを侵害する恐れがある」として拒否している。</p>	<p>裁判官、警視庁立ち入り 証拠保全、映像提示求める</p> <p>として応じなかった。原告側は、一六年九月に中央区の集会会場前で警察官から暴行を受けたとして、計一百万円の支払いを求め同年十一月に提訴した。警視庁は訴訟で「もみ合いにはなったが、違法な行為はしていない」と争っている。原告側が撮影データの提出を求めたのに対し、警視庁は所持を認める一方、地裁へ提出する予定はないとしていた。</p> <p>警視庁の友利英昭訟務課長は「裁判所に係属中の事案であり、コメントできない」としている。</p>
--	--

↑東京新聞(2月24日付夕刊)

「全学連大会襲撃事件」とは?

一昨年9月1日~2日に都内で開催した全学連大会の会場前で、警視庁公安部の公安警察多数が参加者に暴力的な襲撃行為を行った事件。公安警察は、「参加者のメガネや帽子をはぎ取って奪い去る」、「胸倉をつかんで殴る」、「地面に引き倒す」、「首を締め上げる」など白昼公然たる暴行におよび(右写真)、暴行をやめさせようと体を張って止めた参加者たちには、それ以上の苛烈な暴力をふるいました。

▼当日の映像を「Youtube」で見ることができます!

→「全学連大会 公安」で検索してください!



全学連を襲撃した公安警察15名を 告訴×国賠で訴えました!!!



今、安倍政権や中央官庁を筆頭に、文書の隠ぺい・ねつ造・廃棄が大問題になっています。すべては、日本という国家が再び「戦争のできる国」に大変貌しようとしている中で起きていることです。昨年には、反戦運動・労働運動・学生運動の壊滅を目的とし、「治安維持法の再来」とも言われる共謀罪が強行採決されました。

安倍首相は、「2020年東京五輪までの新憲法施行」を掲げて、今年中にも改憲案を国会で発議しようとしています。戦争に向かう政府は必然的に腐敗し、弾圧を強めます。その先兵が公安警察です。私たちは、学生の闘いを暴力的に破壊しようとした警視庁公安部を許さず、その悪を全社会的に暴きます。

公安警察が「職務質問」とほざく暴力行為の数々

